令和7年8月20日

東京都知事 小池百合子 様

賛育会病院の内密出産およびベビーバスケットに関する ご見解のお伺い

医療法人聖粒会 慈恵病院
理事長兼院長 蓮田健

残暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて当院は「こうのとりのゆりかご」(赤ちゃんポスト)や内密出産の活動を通じて、匿名性を求める妊産婦さんからのご相談を全国からいただいております。この中には首都圏からのご依頼も少なくありません。特に匿名での出産を求める女性からのご相談につきましては、熊本からの距離の問題から対応に苦慮することもしばしばです。

そのような中、都内在住で内密出産を求める女性からの相談がございました。この方は仮名を佐藤さんとおっしゃいます。佐藤さんから最初にご相談いただきましたのは今年の4月でしたが、以来ショートメッセージやLINEを通じてやり取りを重ねています。

佐藤さんは賛育会病院で内密出産をしたいと願い、同院にご相談なされたのですが、同院の職員様にそれを断られ、身元を明かした上でのお産を余儀なくされました。出産日近くには、出産をご実家に知られてしまうことの恐れから不安が強まり、混乱状態にも陥りました。私や当院の職員は佐藤さんの保護を試みましたが叶わず、最終的には陣痛発来時に救急車で搬送され同院で出産なさいました。

佐藤さんは同院の働きかけにより内密出産を断念しなければならなかったことや、経済的に困窮していたにも関わらず出産費用の負担を求められたことに強い不満をお持ちです。私も今回のご対応には問題点が多々認められると考えております。

そこで佐藤さんと私とのやり取りの記録をご報告し、私の意見書を添えさせていただきました。これらをご高覧いただき、本質問状にご回答いただければ幸いです。ご多忙の中恐れ入りますが、何卒よろしくお願いいたします。

ご回答につきましては3ヶ月後の令和7年11月20日にいただければ幸いです。場所をご指定いただければ、ご回答書をいただきにまいります。電子メール、あるいは当院にご郵送いただく形でも結構です。

なお内密出産およびベビーバスケットについて社会全体で考えていただくために、本質問状および貴都からのご回答内容につきましては、報道機関を始め広く社会に公開させていただくことを前提としております。

記

(1) 佐藤さんの事例で児童相談所職員様の対応につきましてご評価ください。

本事例では佐藤さんの居住区を担当なさる児童相談所の職員様が対応なさいました。佐藤さんの経過を見ますと、ご対応には強引と思えるような部分がありました。ベビーバスケットや内密出産におきまして、児童相談所は重要な役割を担っていらっしゃると思います。本事例のようなご対応が繰り返されることを懸念しています。

(2) 貴都は内密出産において病院による匿名撤回についての説得、催告を推奨なさいますか。

内密出産やベビーバスケットへのご対応に当たり、児童相談所の方々が匿名性の保障をどのようにお考えかをお聞かせください。匿名性を求める女性が賛育会病院を頼っても、そこで撤回するように説得されることが定型になってしまいますと、2つのセーフティネットの存在意義自体が否定されることとなります。もしも匿名性の撤回圧力が常態化しているようでしたら、これは「おとりの内密出産」「おとりのベビーバスケット」になり、いずれは信用失墜に陥りかねません。「賛育会に行っても、どうせ身元がばれる」という事態は避けるべきです。

(3) 本事例における費用徴収法を適正とお考えでしょうか。

添付の意見書に書かせていただきましたが、本事例では病院側が内密出産に対応できないと分かっているながら、「助けになる」とおびき寄せて、来院後に匿名性の撤回を求めています。また佐藤さんを言いくるめるような形で健康保険の切り替えを誘導しました。

最終的には病院側が60万円以上の出産費用を佐藤さんから得たのですが、経済的困窮者に対して東京都の平均出産費用を請求するのは、税制上優遇を受けている社会福祉法人の対応としては適正と思えません。

また内密出産において子どもの入院費の前金を請求しているような記載もございました。内密出産で生まれた子どもは要保護児童であり、医療費は公費で賄われるはずです。

佐藤さんの経過を見る限り、一連の手続きには児童相談所の職員様も関与していらっしゃるようです。おとり商法とも言える対応を行政の方々が容認なさっているのが疑問です。

(4) 有料内密出産の請求費用の透明化をお求めになりますか。

内密出産希望の女性に現場で対応なさる行政のお立場として、賛育会病院が女性に請求する費用体系の透明化をお求めになりますか。

(5) ベビーバスケットにおける行政、警察のご関与をご教示ください。

ベビーバスケットの運用体制は表に出されることがなく、ベールに包まれたままです。当院の「こうのとりのゆりかご」では、赤ちゃんが預けられた場合、1時間以内に警察や児童相談所の方々がお越しになり、赤ちゃんの状態確認をなさいます。しかし預け入れる人物が赤ちゃんを抱えたままで、「こうのとりのゆりかご」の扉を開けずに今後の相談を求める場合には、警察の方は関与しません。

ベビーバスケットは中でどのようなことが行われているのかが分からずブラックボックス状態です。せめて警察や児童相談所の方々が関与なさっていらっしゃれば、透明化に近づくのではないかと思います。

以上